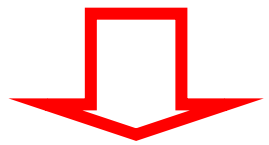


広告主：東京建物株式会社
業種：不動産
媒体：フジサンケイビジネスアイ
掲載面：総合面
掲載日：7月27日
広告会社：オプト



流通各社の販売手探り

消費動向見極め店舗展開

米産牛肉輸入再開から1年

農水省などがBSE(牛海綿状脳症)問題で停止していた米産牛肉の輸入手続きを再開して、27日で1年。西友やイトーヨーカ堂など流通大手は消費者の手応えを確かめながら、そろりと取り扱い店舗を増やしており、米産牛肉も少しずつニッポンの食卓に戻ってきた。だが、輸入停止中にシェアを伸ばした豪州産の影響もあり、米産牛肉の輸入量は停止前の1割程度にとどまっているのが実情だ。

なお残る不信心
米産牛肉に代わって牛井の販売を中止していた青野家は、昨年9月18日に1日限定で販売を再開。12月から15時の4時間限定ながら毎日販売を開始し、今年3月1日から11時24時に販売時間を拡大した。限定販売の日には、店頭に行列ができるなど、約2年間の輸入停止のプレッシャーを感じさせないトップ人気の高さを証明した。

大手スーパーの西友は、3月31日に米産牛肉の実験販売を関東地方の20店舗でスタート。来店客から好評だったことを受けて、6月1日に静岡や東北の一部店舗を含む関東全域15店舗に拡大。15日には北海道、東北、長野の店舗も拡大し、現在はまだU店舗にまで増加している。

イトーヨーカ堂も、6月29日から20店舗で実験販売を開始。現在、首都圏のほか全店と宮城県の店舗を含む、115店舗で販売している。首都圏でスーパー店舗を展開するマルエツも、昨年11月から実験販売を開始し、現在も店舗で販売している。「米産牛肉はやっぱりおいしくおいしく」と好評だというが、食の安全に敏感な消費者の動向を確かめながらの展開だ。中には米産牛肉への不信感から、「国産牛肉や豪州産にこだわる顧客もいる」（西友）という。

流通各社とも、安全性の確保にはこの1年、力を入れてきた。日本が指定する米国の食肉加工場や牧場を担当パイヤーが視察し、安全性を確認

イトーヨーカドー大森店
(6月29日、東京都大田区)

NEWSPACE
名園の系譜薫る北・山の手に住む品格の邸宅選。緑を身近に交通利便性に優れた高品位邸宅が誕生！

北山の手

東京建物株式会社 【Brillia緑寶集】
0120-790-660

<http://www.ryokuhin.jp/>

クローズアップ

NEWSPACE

名園の系譜薫る北・山の手に住む品格の邸宅選。緑を身近に交通利便性に優れた高品位邸宅が誕生！

北山の手

東京建物株式会社 【Brillia緑寶集】
0120-790-660

<http://www.ryokuhin.jp/>